

平成 23 年度

# 包装アカデミーご案内

CERTIFIED PACKAGING PROFESSIONAL

## 包装の専門家を育てるわが国最高レベルの講座

現在と将来の課題に重点をおいた実践的な内容  
実践能力をつける少人数制、マンツーマン方式による指導



受講募集期間

**3月1日 (火) ~ 5月13日 (金)**

募集コース

輸送包装コース	TRANSPORT	包装材料コース	MATERIALS
食品包装コース	FOODS	医薬品包装コース	MEDICINES

期間 | 2011年6月~2012年3月 主催 |  社団法人 日本包装技術協会

## 包装アカデミーのご案内

包装アカデミーは〈包装の専門家〉を育てるわが国最高レベルの講座です。

本講座は、実務経験の豊かな講師陣による現在と将来の課題に重点をおいた実践的な講義、問題解決シミュレーション演習、事例研究、実際現場での実地研修など多彩な教科構成です。また、受講生は少人数制（各専門コース15名以内）とし、マンツーマン方式による指導の徹底を図っております。

本講座で培われる講師と受講生、受講生同士の‘情報交流ネットワーク’は本講座を修了した者だけが得ることのできる財産であり、業務上の問題・課題に挑戦していくためのパワーの源泉となっております。

本講座の修了者（＝包装専士）は、企業内及び包装界のリーダーとして活躍し、高い評価をいただいているところであります。

技術の向上発展、会社の繁栄は、絶え間のない人材の育成にあります。  
御社の明日を担う人材を本講座にご推薦くださいますようご案内申し上げます。

## 平成23年度 包装アカデミー研修委員

委員長	小野 拓邦	東京大学名誉教授
副委員長	門屋 卓	神奈川大学 総合理学研究所 顧問
”	酒井 光彦	(社)日本包装技術協会 専務理事
委員	磯貝 明	東京大学大学院 農学生命科学研究科 教授
”	広木 一正	大日本印刷(株) 常務取締役
”	川成 眞美	雪印乳業(株) 代表取締役副社長
”	関 俊秀	レンゴー(株) 取締役副社長 執行役員
”	梶山 茂	東洋製罐(株) 顧問
”	佐野 千明	味の素(株) 上席理事 生産技術開発センター長
”	高宮城 實明	凸版印刷(株) 取締役副社長
”	川面 克行	アサヒビール(株) 常務取締役
”	下泉 和也	D I C(株) 取締役常務執行役員
”	中島 肇	キリンビール(株) 常務取締役 生産本部長
”	渡 祐二	ライオン(株) 上席執行役員
”	藤森 明彦	藤森工業(株) 取締役社長
”	木伏 良一	第一三共(株) 執行役員 マーケティング部長
”	古屋 一	(社)日本包装技術協会 理事

(敬称略)

## 開催概要

<p>募集コース</p>	<p>輸送包装コース (第25期) 全産業界共通で1社に1名の輸送包装専門家を育成</p> <p>食品包装コース (第26期) 食品業界・関連業界を中心に食品専門家を育成</p> <p>包装材料コース (第25期) 包材業界・関連業界を中心に包装材料専門家を育成</p> <p>医薬品包装コース (第24期) 医薬品業界・関連業界を中心に医薬品包装専門家を育成</p>
<p>受講期間</p>	<p>(1) 平成23年6月～平成24年3月(10ヵ月間) *講義時間 10:00～17:00</p> <p>(2) 開講式 6月9日(木)</p>
<p>会場</p>	<p>(1) 開講式・オリエンテーション、共通教科1 *合宿研修(1泊2日) 湘南国際村センター ①会場案内: 逗子駅よりチャーターバス利用 ②宿泊室: シングル仕様 (神奈川県三浦郡葉山町上山口1560-39 TEL 046-855-1800)</p> <p>(2) 共通教科2 (社) 日本包装技術協会</p> <p>(3) 専門教科(講義) (社) 日本包装技術協会</p> <p>(4) 専門教科(実地研修) 各実地研修会場</p>
<p>プラスワン制度</p>	<p>(1) 受講申込み時に専門コースを選択していただきますが、ご希望により他の専門コースの1教科を聴講することができます。</p> <p>(2) 開講日にプラスワン教科の申し込みを受付けます。</p>
<p>聴講制度</p>	<p>(1) 受講生でプラスワン制度の他に専門コースの聴講を希望する場合は、2教科まで受講することができます。</p> <p>(2) 包装専士で聴講を希望する場合は、3教科まで受講することができます。* (1) (2) の聴講には聴講料がかかります (P2参照)。</p>
<p>資格</p>	<p>所定教科を受講し試験に合格した者には &lt;包装専士&gt; (CERTIFIED PACKAGING PROFESSIONAL) の称号が与えられます。* P3参照</p>

## 募集要項

<b>募集期間</b>	平成23年3月1日（火）～5月13日（金）
<b>募集人員</b>	各コース 15名。 *各コース、15名に達し次第締め切らせて頂きます。 *受講申込者が7名未満のコースは開講しない場合があります。
<b>受講資格</b>	(1) 包装管理士講座を受講し〈包装管理士〉の称号取得者で、所属事業所（代表者又は上司）の推薦がある者。 (2) 〈包装管理士〉未取得者が受講する場合は、高校卒業以上の学力を有し、28歳以上で、包装関連業務に6年以上の経験を有し所属事業所（代表者又は上司）の推薦がある者。 但し、研修委員会が特に認めた者はこの限りではない。
<b>受講料</b>	会員（会員会社）315,000円（消費税込）、一般 504,000円（消費税込） 但し、〈包装管理士〉は、10%割引となります。 ○受講料に含まれるもの：テキスト・資料、開講式～共通教科1の宿泊費（1泊3食*）*宿泊日の夕食、翌日の朝・昼食 ○受講料に含まれないもの：受講にかかる交通費
<b>聴講料*</b> <small>*聴講制度</small>	1教科 10,500円(消費税込) ○聴講希望教科の講義日の2ヵ月以上前に申し込んでください。

本講座は【キャリア形成促進助成金制度】(厚生労働省、雇用・能力開発機構)に申請することができます。キャリア形成促進助成金制度とは企業内における従業員のキャリア形成の促進のため、事業主が従業員に対して行った、目標が明確化された職業訓練の実施等により、それにかかった費用の一部を助成する制度です。この制度を利用するためには、年間職業能力開発計画事前登録等が必要となりますので、詳細は下記にお問い合わせください。

◇厚生労働省ホームページ：[//www.mhlw.go.jp/](http://www.mhlw.go.jp/)→職業能力開発→キャリア形成促進助成金

◇独立行政法人 雇用・能力開発機構 都道府県センター（ナビダイヤル）0570 - 001154

ホームページ：[//www.ehdo.go.jp/](http://www.ehdo.go.jp/)→都道府県名から探す→当該都道府県名

## 申込方法

- (1) 最終頁の「包装アカデミー受講願書」に必要事項を記入し、顔写真を貼付して、下記の申込み先宛にご送付ください。
- (2) 受講資格審査の上、関係書類、受講料請求書をお送りします。

### <「包装アカデミー受講願書」に記載の個人情報の取り扱いについて>

- (1) 「包装アカデミー受講願書」から受講生名簿を作成します。
- (2) この受講生名簿は包装アカデミー事業運営に使用する他、包装アカデミー講師及び受講生に配付します。その他、(社)日本包装技術協会が主催する事業のご案内のために利用させていただきます。
- (3) この受講生名簿は、法令に基づく場合を除き、第三者に開示、提供しません。

## その他

- (1) 諸事情により、プログラムの一部を変更することがあります。
- (2) 受講者・聴講者以外の方にはテキスト、その他資料は配付しません。
- (3) 開講日以降に受講を取り止めた場合、受講料の払い戻しは致しません。
- (4) 企業訪問の現地研修については、同業種の方は受講申込み時に、当該教科と他コースの希望教科への変更をお願いすることがあります。

## お問い合わせ・申込み先

(社) 日本包装技術協会 (JPI) 包装技術研究所・包装アカデミー事務局  
〒104 - 0045 東京都中央区築地 4 - 1 - 1 東劇ビル10階  
TEL (03) 3543 - 9351 FAX (03) 3543 - 8970

## 合格後の称号と特典

- (1) 所定教科を受講し試験に合格した者に  
<包装専士> (CERTIFIED PACKAGING PROFESSIONAL) の称号を授与します。  
この称号は、包装技術の専門家である証として権威づけられます。
- (2) 包装専士には、包装アカデミー講師、包装管理士講座講師、J I S 委員会委員、各種研究会の委員など、活躍の道が開かれています。
- (3) 包装専士有資格者は日本包装専士会\*に入会することができます。

\*日本包装専士会は、J P I 傘下の包装専士の団体で、機関誌の発行、研修会、講演会等、会員の相互研鑽と情報交流が活発に行われています。

## 包装アカデミー 共通教科

### ■共通教科1

月 日	教科と内容
6/9 (木)	開講式・オリエンテーション
	開講講演
	<b>企業が期待する人材</b> ①明日を読む力と今日を実行する力 ②今の時代の「見えざる手」とは ③「CSR」「生物多様性」・・・氾濫する最近の言葉の中で企業人はどう考えれば良いのか
	<b>包装産業とこれからの経営課題</b> ①包装が果たす社会的役割 ②マーケティング戦略と着眼点 ③包装産業のこれからの展望
	<b>包装の専門家をめざして</b> (1) 専門コース別研修 (2) 異業種交流研修
6/10 (金)	<b>包装ビジョンⅠー世界の包装市場ー</b> ①低炭素社会、サステナビリティ・グローバル化の時代に、包装産業とパッケージはどう変わるか ②技術・市場・企業戦略の立場から、10年後の包装社会を予測する

### ■共通教科2

6/27 (月)	<b>包装ビジョンⅡー包装開発における知的財産情報の活用ー</b> ①包装開発における知的財産マネジメントの意義と重要性 ②知的財産情報へのアクセス方法と活用事例 ③包装開発テーマ探索、開発効率化のための特許情報活用の事例研究
	<b>包装ビジョンⅢー包装新技術ー</b> ①アクティブパッケージングなどの新包装技法 ②包装材料の市場動向 ③新規包装食品の開発動向と市場動向 ④機能性包装材料の今後の展望
	<b>包装専士論文作成技法</b> ①論文とは ②包装専士論文作成要領
6/28 (火)	<b>包装ビジョンⅣー電子情報技術ー</b> ①包装と電子情報技術のかかわり ②包装とバーコード ③最近のコードソリューション ④包装とデータベース ⑤ICタグのしくみ ⑥包装とICタグ ⑦包装と電子情報技術の今後
	<b>包装ビジョンⅤー環境配慮ー</b> ①環境配慮と包装産業 ②改正容器包装リサイクル法のポイント ③3R対応設計のポイントと具体例 ④LCA手法と具体的な進め方
	<b>実力養成総合演習の進め方</b> ①実力養成総合演習とは ②専門コース別のテーマと進め方

## 包装アカデミー 専門教科

### 1. 輸送包装コース

月 日	教科と内容
7/14 (木)	<b>実地研修 易損性の測定・評価技法実習</b> * 富士ゼロックス(株) 物流試験所 ①物流試験における振動・衝撃加速度の測定技法 ②輸送振動および衝撃に対する易損性の測定・評価技法
7/15 (金)	<b>実地研修 段ボール設計技法</b> * レンゴー(株) パッケージ開発センター ①段ボール原紙 ②段ボール及び段ボール箱 ③段ボール箱の製造方法 ④段ボール箱の特性 ⑤段ボールの包装設計 ⑥材料及び包装貨物試験
8/2 (火)	<b>実地研修 輸送環境情報と活用技術Ⅰ — 振動、温湿度 —</b> * (株)MTI 新杉田研究室 ①実輸送で貨物が遭遇する輸送環境 ②輸送計測データの活用技術 ③輸送シミュレーション
	<b>実地研修 輸送環境情報と活用技術Ⅱ — 輸送試験 —</b> * (株)MTI 新杉田研究室 ①輸送試験に必要な予備実験の方法、試作品の作成方法 ②効率的な輸送試験方法、評価方法
9/7 (水)	<b>緩衝設計技法Ⅰ — プラスチック系 —</b> ①プラスチック系緩衝材を使用した最適包装設計の理論とアプローチ技法 ②コストを意識した設計のポイント ③最近のCAE技術、シミュレーション技術を適用した衝撃解析技法
10/18 (火)	<b>緩衝設計技法Ⅱ — 紙系 —</b> ①紙系緩衝材の種類と各々の特性・用途 ②段ボールを中心とした構造体緩衝材の設計技法
11/8 (火)	<b>輸送包装合理化の進め方</b> ①包装合理化の進め方(情報収集～合理化案作成～実施) ②効率的な実験方法と実施事例 ③演習
12/6 (火)	<b>国際物流Ⅰ — 輸出に関する法規制と規格 —</b> ①国際輸送における重要課題、コンプライアンスとCSR ②国によって異なる要求事項の分類 ③法規制の具体例とその対応
	<b>国際物流Ⅱ — 輸出包装技法 —</b> ①輸出梱包のための必要情報 ②輸送条件別梱包レベルの設定 ③輸出梱包設計技法(技法) ④梱包用材料の害虫処理 ⑤輸出梱包の3R対応
1/12 1/13 (木、金)	<b>実力養成総合演習</b> ①個人演習～レポート提出(中間と最終、7-12月) ②グループ演習～成果発表 ③講評、解説
2/7 (火)	<b>事例研究</b> ①実務で遭遇する種々の技術課題を事例として提起 ②個別事例ごとに解決のための考え方・進め方・解決策を検討 ③解決のためのポイント、解決策(模範解答例)を解説
3/6 (火)	<b>包装専士論文</b> 各自の研究成果を包装専士論文にまとめ発表する

## 包装アカデミー 専門教科

### 2. 食品包装コース

月 日	教科と内容
7/11 (月)	<b>実地研修</b> * 味の素(株)川崎工場 ①工場見学(生産工程、品質保証、環境対策) ②講演 味の素(株)における包装開発事例
7/12 (火)	<b>包装材料の安全性とリスク管理</b> ☆包装材料コースと合同講義 ①食品包装材料の法規制(日、欧、米、中)及びアジア諸国との現状比較 ②日本における法改正に向けた検討状況 ③包装材料中の化学物質のリスク管理、環境ホルモン問題等のトピックスの安全性評価 ④企業における対応と課題
8/3 (水)	<b>食品用高機能パッケージ</b> ①食品包装に求められる機能 ②食品包装設計 ③複合材料と製法 ④包装技法 ⑤機能パッケージ事例 ⑥アドバンスパッケージ
9/6 (火)	<b>食品包装と品質保持</b> ①食品包装の役割と品質保持の考え方 ②品質保持のための包装技術 ③品質保持包装の設計と事例 <b>食品包装と微生物対策</b> ①微生物と食中毒 ②微生物の制御方法 ③微生物制御のための包装技術
10/19 (水)	<b>食品包装設計技術Ⅰー 固体・粉体包装ー</b> ①各種食品包装と特徴 ②食品包装の要求品質 ③食品包装設計と材料選定 ④食品包装の評価方法
11/9 (水)	<b>食品包装設計技術Ⅱー レトルト、アセプティック包装ー</b> ①レトルト用包装材料 ②レトルト殺菌の原理と方法 ③レトルト殺菌事例 ④アセプティック包装の原理と方法 ⑤アセプティック包装設備
12/7 (水)	<b>食品包装設計技術Ⅲー 包装機械・システムー</b> ①内容物別包装形態と機械装置 ②包装ラインのシステム化 ③包装ラインの衛生管理(衛生、異物混入防止、異物検査、HACCP他) <b>食品包装設計技術Ⅳー 包装試験法ー</b> ①ライン適正 ②内容物保護性(シール強度、破裂強さ、引張強度など) ③保存性 ④利便性(開封強度、開栓性など)
1/12 1/13 (木、金)	<b>実力養成総合演習</b> ①個人演習～レポート提出(中間と最終、7-12月) ②グループ演習～成果発表 ③講評、解説
2/8 (水)	<b>事例研究</b> ①実務で遭遇する種々の技術課題を事例として提起 ②個別事例ごとに解決のための考え方・進め方・解決策を検討 ③解決のためのポイント、解決策(模範解答例)を解説
3/7 (水)	<b>包装専士論文</b> 各自の研究成果を包装専士論文にまとめ発表する

## 包装アカデミー 専門教科

### 3. 包装材料コース

月 日	教科と内容
7/12 (火)	<b>包装材料の安全性とリスク管理</b> ☆食品包装コースと合同講義 ①食品包装材料の法規制(日、欧、米、中)及びアジア諸国との現状比較 ②日本における法改正に向けた検討状況 ③包装材料中の化学物質のリスク管理、環境ホルモン問題等のトピックスの安全性評価 ④企業における対応と課題
7/13 (水)	<b>実地研修</b> *日本ポリエチレン(株)研究所 三菱化学(株)ケミストリープラザ ①研究開発センター・製造設備見学 ②ケミストリープラザ見学 ③講演 ポリエチレン樹脂の容器包装への適用 (当社PETボトルキャップ・カップ向け材料開発)
8/4 (木)	<b>包装材料科学</b> ①包装における高分子材料の構造と基礎物性 ②接着の原理と応用 (高分子理論の接着への適合性)
9/5 (月)	<b>高機能包装材料Ⅰ－軟包装－</b> ①各種軟包材の特徴 ②軟包材の安全衛生対応、環境対応 ③新素材・高機能包材
10/20 (木)	<b>高機能包装材料Ⅱ－ガラス容器－</b> ①ガラス容器の特性と製造方法 ②ガラス容器材料の特性 など
	<b>高機能包装材料Ⅲ－プラスチック剛性容器、金属容器－</b> ①製缶用金属材料、有機材料、金属容器の製造方法 ②プラスチック剛性容器用材料、プラスチック剛性容器の製造方法
11/10 (木)	<b>高機能包装材料Ⅳ－紙容器－</b> ①各種材料と特徴 ②紙容器の現状と課題 ③これからの紙容器
	<b>高機能包装材料Ⅴ－新包装材料－</b> ①最近の高機能包装材料(ガスバリア、酸素吸収、臭い制御、生分解他) ②インテリジェントパッケージング ③包装事例にみる最近のトレンド
12/8 (木)	<b>包装材料とコンバーティング技術</b> ①印刷・製版の基本技術 ②包装と印刷の機能、役割 ③包装印刷とユニバーサルデザイン ④包装材料のコンバーティング技術
1/12 1/13 (木、金)	<b>実力養成総合演習</b> ①個人演習～レポート提出 (中間と最終、7-12月) ②グループ演習～成果発表 ③講評、解説
2/9 (木)	<b>事例研究</b> ①実務で遭遇する種々の技術課題を事例として提起 ②個別事例ごとに解決のための考え方・進め方・解決策を検討 ③解決のためのポイント、解決策(模範解答例)を解説
3/8 (木)	<b>包装専士論文</b> 各自の研究成果を包装専士論文にまとめ発表する

## 包装アカデミー 専門教科

### 4. 医薬品包装コース

月 日	教科と内容
7/7 (木)	<b>医薬品包装と情報伝達技術</b> ①食薬区分 ②薬事法他関連法律で義務付けられている表示事項と解釈 ③適正使用・安全対策に関する表示と情報提供の具体的方法 ④医薬品包装と表示等に対する今後の課題
7/8 (金)	<b>実地研修</b> * 内藤記念くすり博物館、エーザイ（株）川島工園 ①内藤記念くすり博物館見学 ②エーザイ（株）川島工園見学 ③講演
8/5 (金)	<b>医薬品包装設計技術</b> ①医薬品包装に求められる機能・役割 ②医薬品包装設計の進め方（開発～工業化） ③医薬品包装トピックス、動向 <b>医薬品包装と品質保証</b> ①工業化・バリデーションの技術と進め方 ②包装試験法と応用
9/16 (金)	<b>医療事故防止と医薬品包装</b> * 国立成育医療研究センターにおいて実地研修、講義 ①医薬品を取り扱う薬剤施設見学 ②講義 医療機関での医薬品の流れ、GS1-DetaBarの利活用場面
10/21 (金)	<b>医薬品の包材選択と応用技術 — プラスチック軟包材を中心に —</b> ①医薬品包装に求められる機能と循環型社会の中での使命 ②包材選択の基本(プラスチックの特性、医薬品用包材事例、法規制等) ③包装設計の留意点（防湿・防気包装、相互作用防止等）
11/11 (金)	<b>医薬品の剤形別包装技術と応用Ⅰ — 液剤 —</b> 液剤（注射剤、内外用剤、点眼剤、点鼻剤）の ①製剤の特徴 ②製造方法 ③包装設計 ④包装試験 ⑤安定性・使用性の観点からの留意点
12/9 (金)	<b>医薬品の剤形別包装技術と応用Ⅱ — 固形剤 —</b> 錠剤、カプセル剤など固形製剤の直接容器を中心に ①医薬品包装の機能と基本 ②設計時の課題 ③PTP、SP、瓶包装の基本要件と設計 ④いたづら防止等の包装技法と応用
1/12 1/13 (木、金)	<b>実力養成総合演習</b> ①個人演習～レポート提出（中間と最終、7-12月） ②グループ演習～成果発表 ③講評、解説
2/10 (金)	<b>事例研究</b> ①実務で遭遇する種々の技術課題を事例として提起 ②個別事例ごとに解決のための考え方・進め方・解決策を検討 ③解決のためのポイント、解決策（模範解答例）を解説
3/9 (金)	<b>包装専士論文</b> 各自の研究成果を包装専士論文にまとめ発表する



開講式



小野研修委員長の開講講演



実地研修（輸送包装コース）



実地研修（食品包装コース）



実地研修（包装材料コース）



実地研修（医薬品包装コース）



実力養成総合演習



実力養成総合演習

## 包装アカデミー 全体進行概念図

\*1

開講式・オリエンテーション  
6月9日

\*2

共通教科（1、2）  
6月9、10、27、28日

\*3 <専門教科>

輸送包装コース  
7月～2月

食品包装コース  
7月～2月

包装材料コース  
7月～2月

医薬品包装コース  
7月～2月

\*4

実力養成総合演習  
7～12月 個人演習、1月 グループ演習

\*5

包装専士論文発表～ 合否審査  
3月6日～9日 \*専門コース別に実施

\*6

合格証書授与式  
3月30日

包装専士

CERTIFIED PACKAGING PROFESSIONAL

## \* 1 開講式・オリエンテーション

- (1) 開講式は、「湘南国際村センター」で、6月9日（木）13:00から行います。
- (2) 開講式・オリエンテーションに引き続いて共通教科1の講義に入ります。(1泊2日の合宿研修)

## \* 2 共通教科（1、2）

- (1) 包装アカデミー受講生全員共通の教科です。4コース合同で行います。
- (2) 各講義の終了後「理解度テスト」を行います。
- (3) 共通教科1は湘南国際村センター、共通教科2は（社）日本包装技術協会で行います。

## \* 3 専門教科（4コース）

- (1) 7月からは、受講申し込み時に選択した専門コースに分かれて、講義と実地研修を行います。
- (2) 講義は（社）日本包装技術協会、実地研修はそれぞれの現地で行います。
- (3) 講義の終了後「理解度テスト」を行います。
- (4) 希望により他コースの講義を聴講することができます（プラスワン制度、聴講制度）。

## \* 4 実力養成総合演習

- (1) 共通教科2で、演習の進め方・演習テーマについて説明します。
- (2) 演習テーマは個人演習として進め、中間レポートを提出（9月）、担当講師から個人指導を受け、レポートを修正して再提出します（11月）。
- (3) グループ毎に各人の演習成果を相互発表・討議し、担当講師の指導を受け、グループとしての演習成果にまとめます。
- (4) 全グループ合同で交互に、グループ演習成果発表・質疑・講評を行い、相互研鑽を図ります。

## \* 5 包装専士論文発表～合否審査

- (1) 共通教科2で、包装専士論文作成技法について説明します。
- (2) 各自が選定したテーマにより研究を進め、その成果を「包装専士論文」としてまとめます。
- (3) 包装専士論文発表は専門コース別に行い包装アカデミー研修委員が審査します。受講生は交互に発表・聴講します。
- (4) 包装専士論文・理解度テスト・実力養成総合演習の結果及び出席日数を総合して、包装アカデミー研修委員会が合否を判定します。併せて成績優秀者（金賞、銀賞、銅賞）を選びます。

## \* 6 合格証書授与式

- (1) 合格者には合格証書を授与し、＜包装専士＞（CERTIFIED PACKAGING PROFESSIONAL）の称号が与えられます。＜包装専士＞は包装技術の専門家としての証です。
- (2) 成績優秀者には表彰状並びに副賞が授与されます。



## 平成23年度 包装アカデミー受講願書

社団法人 日本包装技術協会 御中

平成23年 月 日

フリガナ 氏名	(印)	男・女	顔写真添付 (3×4cm)	
生年月日	西暦	年 月 日 (満 歳)		
会社名				
所属・役職				
所在地 (〒 - )				
TEL ( )	FAX ( )	携帯 - -		
E-mail				
最終学校名 (専攻: )				
職務歴	年 月			
*できるだけ詳細に	年 月			
	年 月			
	年 月			
	年 月			
包装関連経験年数	年 カ月	専門分野		
包装管理士取得年	年 (第 期)	包装管理士 No.		
専門コース *希望コースに○印	輸送包装コース (第25期)	食品包装コース (第26期)	包装材料コース (第25期)	医薬品包装コース (第24期)

### 推 薦 書

社団法人 日本包装技術協会 御中

平成23年 月 日

本受講願書に記載の者は、記載内容に相違ないことを確認し、平成23年度 包装アカデミーの  
受講適格者であることを認め推薦致します

推薦者名	印	TEL ( )
会社名		FAX ( )
所属・役職		
所在地	(〒 - )	

切り取り線

# 社団法人 日本包装技術協会の事業案内

## 〔設立の目的〕

社団法人 日本包装技術協会は、昭和38年3月14日、包装技術等の向上改善を通じて生産・流通および消費の合理化を図り、もってわが国経済の発展に寄与することを目的として設立されました。（会員数1,200社）

## 〔協会の主な事業〕

目的を達成させるため、下記の事業を行っています。

- ◇包装に関する調査・研究
- ◇包装に関する規格の作成・制定およびその推進
- ◇包装に関する試験、技術、デザインの開発および指導・相談とその普及
- ◇内外関係機関との連絡提携
- ◇包装人材の育成並びにその推進
- ◇包装啓発活動およびその推進
- ◇その他本会の目的を達成するために必要な事業

## 〔入会手続〕

入会申込書に諸事項を記入のうえ、お申込みいただくことにより入会が認められます。

入会には、特に資格その他の制限はありません。

	法人会員・賛助会員	個人会員
入会金	10,000円	5,000円
年会費(一口)	100,000円	40,000円

\*詳細は組織部までお問い合わせください。

## 1.会員サービス活動

- 月例研究会・企業見学会
- 包装管理士講座
- 包装アカデミー
- 各種セミナー
- 月刊誌「包装技術」の発行
- 技術相談・コンサルティング
- 各種情報サービスと各種出版
- 各種包装懇話会

## 2.経験交流

- 世界包装機構(WPO)、アジア包装連盟(APF)等との連携
- 海外包装専門視察団の派遣
- 海外包装技術研修および視察団の受入実施
- 全日本包装技術研究大会
- 木下賞
- 日本パッケージングコンテスト
- グッドパッケージング展
- 東京国際包装展(東京PACK)
- 暮らしの包装商品展

## 3.調査・研究(JPI包装技術研究所)

- 包装標準化の推進
- JIS・ISO等各種規格の原案作成
- 海外における包装事情調査と技術協力
- 内外包装産業統計の調査
- 包装の省資源・省エネルギーの調査・研究
- 生活者包装設計のための調査・研究
- 包装関係文献資料の収集整理



社団法人 日本包装技術協会

本部 〒104-0045 東京都中央区築地4-1-1東劇ビル10階  
関東支部 TEL 03(3543)1189 FAX 03(3543)8970

関西支部 〒530-6691 大阪市北区中之島6-2-27  
中之島センタービル28階  
(関西生産性本部内)  
TEL 06(6444)6473 FAX 06(6444)6450

中部支部 〒450-0003 名古屋市中区村名駅南4-12-17  
日通ビル2階  
TEL 052(563)7110 FAX 052(563)7123

西日本支部 〒812-0034 福岡市博多区下呉服町1-1日通ビル5階  
TEL 092(272)5632 FAX 092(272)5635

東北支部 〒980-0014 仙台市青葉区本町2-16-12  
仙台商工会議所会館8階  
(東北生産性本部内)  
TEL 022(261)0411 FAX 022(261)1474

北海道支部 〒060-0001 札幌市中央区北1条西2丁目  
北海道経済センタービル  
(北海道生産性本部内)  
TEL 011(241)8591 FAX 011(241)3898